

LAS を GSV に変換(グリッド)

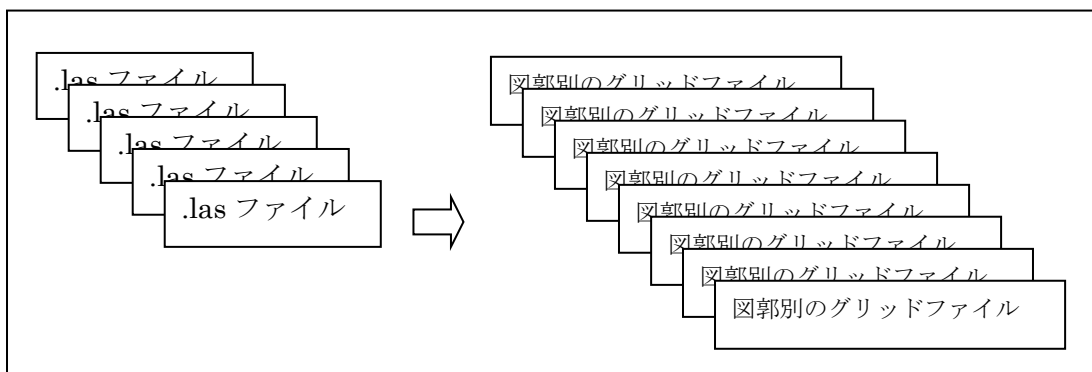
目次

1. 機能	1
2. ダイアログ	1
3. グリッドの標高値について	3
4. 保存するグリッドファイルについて	3
5. 更新記録	3

1. 機能

LAS(.las)ファイルに記録されているポイントの範囲から図郭を特定し、図郭別にグリッドのファイルを作成します。
グリッドのZ値は、最も近いLASのポイントのZ値を参照します。

1平方メートルに数十点から数百点程度の密度の高いLASのポイントから、1m 間隔あるいは50cm 間隔のグリッドデータを取り出すために作成しました。



Las ファイルのポイント範囲が重なっているケースを想定しています。

2. ダイアログ

ファイル指定あるいはフォルダ指定

ファイル指定の場合、.las ファイルを指定します。フォルダ指定の場合、指定されたフォルダの .las ファイルをリロードします。

LAS ファイル(.las)入力

.las ファイルあるいはフォルダを指定します。拡張子「.las」のファイルを参照します。

緯度経度から平面直角座標系に変換する

.las の座標が緯度経度で記録されている場合、ONにします。

平面直角座標系番号

平面直角座標系番号を指定します。保存するファイル名に平面直角座標系番号を付けます。また、緯度経度で記録されている .las の座標を平面直角座標系に変換する際に参照します。

図郭別に保存するファイルの地図情報レベル

保存する図郭別ファイルの地図情報レベルを指定します。

保存するグリッドの間隔

保存する図郭別ファイルのグリッドの間隔を指定します。

図郭別グリッドファイル (出力フォルダ)

図郭別のグリッドファイルを保存するフォルダを指定します。内容は下記参照。

3. グリッドの標高値について

保存するグリッドの標高値の計算方法です。

グリッドの各点について、.las の最も近い点を特定します。

- ① グリッドの位置と最も近い las の点に注目します。
- ② 距離が、グリッドの間隔の半分より大きい場合（グリッドを中心とする円の外側の場合）は、グリッドの Z 値は未定となり、保存の対象になりません。
- ③ Las の Z 値をグリッドの Z 値とします。

4. 保存するグリッドファイルについて

現在、保存するのは.csv ファイルのみです。

	0	10	20
1	数学X(東西),数学Y(南北),標高↓		
2	-87417.500,-65397.500,27.636↓		
3	-87412.500,-65397.500,26.436↓		
4	-87407.500,-65397.500,24.296↓		
5	-87402.500,-65397.500,23.596↓		
6	-87392.500,-65397.500,21.228↓		
7	-87387.500,-65397.500,19.064↓		
8	-87382.500,-65397.500,18.966↓		
9	-87377.500,-65397.500,23.289↓		
10	-87372.500,-65397.500,23.776↓		

1行目がヘッダ行で、2行目からデータです。

今後、ヘッダの有無、列の構成、他のフォーマットなど追加して行く予定です。

5. 更新記録

2017/01/30

- ✓このメニューを作成

2018/10/16

- ✓保存するグリッドの間隔に 1cm,2cm,5cm,10cm を追加

保存するグリッドの間隔									
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
1cm	2cm	5cm	10cm	25cm	50cm	1m	2m	5m	10m